

秋田県 古代・中世墓一覽

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経
02-	001	用野目川向Ⅲ遺跡	鹿角市花輪字用野目川向116-6他	10世紀前半～中頃	米代川に面する台地上。標高201m。	土坑1基。墓かどうか不明だが、遺物がまとまって出土。参考資料。	内黒土師器坏、甕、鉄器。	-	-	008	-	40-12-41 140-46-5
02-	002	柏崎館跡	鹿角市十和田毛馬内字柏崎20番地他	中世	米代川の支流小坂川の刻む台地上。標高144m。	土塁状の小丘あり。同じ地区から土器埋設遺構1基。	在地窯？の壺が埋められていた。産地・時期不明。	-	-	034	-	40-16-18 140-46-21
02-	003	地羅野館跡	鹿角市花輪字地羅野13番地他	中世	米代川の刻む台地上。標高153m。	土坑墓1基。直径1mの円筒状。覆土は極めて緻密で、蓋状にバックしている。覆土中に礫が入る。	-	-	-	036	-	40-13-19 140-48-14
02-	004	当麻館跡	鹿角市十和田毛馬内字古館6-1他	15～16世紀代	米代川の支流小坂川の刻む舌状台地上。標高159m。	土坑墓7基。副葬品を持つ。	銅製簪、小柄、洪武通寶。	-	-	035	-	40-16-49 140-45-54
02-	005	中の崎遺跡	鹿角市花輪字中の崎95番地	9世紀後半～10世紀代	米代川の作る段丘上。標高184m。	合口蓋棺1基。To-A上面（十和田a火山灰面）から土坑を掘り込む。2個の土師器甕を口縁部で合わせて横位埋葬。	14C分析では1150±60yBP（β）、土器を見ると9世紀後半～10世紀代。	日本アイソトープ協会による14C分析、秋田農業試験場による「付1 土壌の磷酸測定について」	排水溝のある竪穴住居跡3軒検出。平安時代の集落跡。	005	-	40-11-2 140-48-3
02-	006	妻の神Ⅲ遺跡	鹿角市花輪字妻の神6他	12世紀以降	米代川の支流乳牛川流域の標高162mの台地上。	土坑墓3基。いずれも銭を伴う。土坑形態はいずれも隅丸方形で2.85×1.64、2.15×1.95、4×1.5m。	1基は聖宋元寶（1101年初鑄）他5枚、もう1基は洪武通寶（1367年初鑄）他5枚を副葬する。	山口敏「妻の神Ⅲ遺跡出土の中世人骨について」	-	006	-	40-12-30 140-48-20
02-	007	上葛岡Ⅳ遺跡	鹿角市八幡平字上葛岡	10世紀代	狭い舌状台地上。標高215m。	土坑17基。墓か不明。参考資料。	-	-	-	016	-	40-9-44 140-48-15
02-	008	餌釣遺跡	大館市餌釣字館27外	中世	米代川の左岸、標高80mの台地上。	積石遺構3基。1基は、4.4×3.6mの範囲に角礫（直径2～10cm）を高さを40cmに積む。もう1基は、3.2×2.8mの範囲に角礫を高さを55cmに積む。最後の1基は測量のみ。直径7.7×8.8m、高さ1.2m。他に長方形を呈する土坑3基を参考に上げた。墓かは不明。	礫に混じって珠洲系陶器破片数点出土。	餌釣館の一部。山王岱遺跡（009）と連続する。土坑34基検出。そのうち1基は土坑墓の可能性があると判断としない。	-	012	-	40-14-57 140-34-51
02-	009	山王岱遺跡	大館市餌釣字山王岱3他	14～15世紀代	米代川の左岸、台地上。標高77m。	火葬墓7基。120×50～70cmの小判形土坑の長軸に直交して焚口状の溝がとりつき土坑内で火葬したもの4基と、溝がなく他所で火葬した人骨を埋めたもの3基。	-	札幌医科大学解剖学第2講座の鈴木隆雄による人骨同定。	餌釣館の一部。鍵手状の空堀と土塁が走る。	018	-	40-15-13 140-34-44
02-	010	玉林寺跡	大館市茂内大字鬼ヶ台3番地	16世紀中葉～17世紀代	長木川の刻む台地上。	土坑墓2基と組石土坑1基。土坑に近接して方形ピットが取り付く。ピット中からは仏像が出土。もう1基の土坑には立石があり、大日堂前遺跡（011）と似ている。組石土坑は9個の礫が組まれている。溝状の張り出しから半分に割られた陶器が出土した。	仏像は高さ9.2cmで首なし。出土陶器は近世初頭の在地窯産と報告されているが、明末清初の粗雑な青磁にも似ている。	浅利氏の菩提寺。16世紀代の中頃に建立された可能性と、佐竹が入城後浅利の旧臣が建立して寺町を形成したと考えている。3代目勝頼、4代目頼平が大館城にいたのでその頃かもしれない。	032	-	40-17-15 140-36-58	
02-	011	大日堂前遺跡	北秋田郡比内町独鉾字大日堂10番地	14世紀代、16世紀末か17世紀代	米代川の支流犀川の刻む台地上。標高110m。	土坑墓2基。1基は石塔？、高さ37cm、幅18cmが立つ。常滑壺？が土坑の前に置かれていた。もう1基は直径90cmの円形土坑。墓かどうかは不明だが珠洲系甕の大破片が出土した。	珠洲系甕14世紀代？、常滑系壺？16世紀末か17世紀代。他は10～11世紀代の土師器	-	-	043	-	40-11-22 140-36-29
02-	012	金仏遺跡	山本郡琴丘町鹿渡字金仏31外	中世、13世紀代か？	八郎潟に面する湖成台地。鹿渡川に開析される。標高15m。	張り出しを持つ平面十字形の火葬墓1基。	-	盤若台遺跡（018）と隣接する。盤若台よりも若干新しい時期で、14世紀代に中心を持つ。	023	-	40-1-56 140-5-18	
02-	013	からむし岱Ⅰ遺跡	北秋田郡鷹巣町字カラムシ岱7-1外	1010±60yBP (AMS)	米代川の支流小猿川を作る台地上。標高41m。	火葬墓1基。2.30×0.76m、深さ8cmの不整楕円形の主体部に1.96×0.36m、深さ8cmの溝が直交して「十字形」となる。	竪穴住居から出土している土師器は10世紀前半。	パレオラボ山形秀樹による14C年代測定	平安時代の集落。竪穴住居の14C年代は9世紀となっているが、土器はもう少し新しく10世紀前半と考えられる。	024	-	40-12-0 140-21-51

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経
02-	014	加代神館跡	山本郡二ツ井町種字下火箱前117他	10世紀後半～末	米代川の刻む台地上。標高50mで水田面との比高40m。	集石土坑2基。	-	バリノ・サーヴェイ株式会社による「加代神館跡における自然科学分析」140測定と動物遺存体分析	044	-	40-13-57	140-13-21
02-	015	杉沢台遺跡	能代市磐宇杉沢台	平安時代、9世紀後半か？	竹生川に刻まれる台地上。標高35m。低地との比高は25m。	円形周溝2基が切り合う。両方とも楕円形で、11×9mと8×7m。溝の幅は1.5～2.5m。深さ50～90cm。	溝底部より土師器の底部破片出土。	-	003	-	40-15-19	140-3-5
02-	016	外荒巻館跡	能代市外荒巻字北山ノ上20他	9世紀中～後様10世紀前半。	米代川の支流竹生川の刻む東雲台地。日本海の高成段丘。汀線から5km。標高38m、水田との比高15m。	土坑墓5基、火葬墓2基、円形周溝1基、土器埋設（墓？）1基。土坑墓からは完形に近い土師器が出土。土器埋設（墓）は内容物の化学分析をしているが不明。円形周溝は溝外径で6m。溝内より完形土師器破片2点出土。火葬墓は土師器破片が合わせ口となるものと、底部穿孔した甕に口縁部を打ち欠いた坏で蓋をしたものがある。	墓から出土している土師器は9世紀後半～10世紀前半。	バリノ・サーヴェイ株式会社による珪藻・珪酸体・微細遺物・土壌理化学・骨同定が行われている。人骨は年齢性別不明。	041	-	40-15-39	140-4-23
02-	017	開防遺跡	南秋田郡五城目町小池字開防21外	9世紀後半～10世紀前半代	八郎湯に注ぐ馬場目川の自然堤防上。標高6～7m。	火葬墓4基、円形周溝1基。火葬墓1基は土坑、3基は合わせ口の坏に人骨を納める。円形周溝は直径2m。	土坑SK1から取手付土器が出土。火葬墓SR1～3は9世紀第4四半世紀から10世紀第1四半世紀。	小元久仁夫（日本大学文理学部地理学科）による140年代測定。（秋田大学医学部法医学教室）による火葬人骨のDNA分析。	039	-	39-56-46	140-5-55
02-	018	盤若台遺跡	山本郡琴丘町鹿渡字盤若台117-2外	12世紀末～13世紀前半を中心（中国陶磁）	八郎湯に面する湖成台地。鹿渡川に開析される。標高16m。	方形周溝5基、火葬墓20基。方形周溝は「日」の字形を呈する。溝内から拳大から20cmの礫が大量に出土。炭化物や火葬人骨破片、珠洲系陶器の破片が出土した。火葬墓は、楕円形土坑に直行する焚き口が付属して平面形が十字形をするタイプと、円形や不整形土坑に火葬骨を埋葬したもの2種類がある。	白磁四耳壺と龍泉窯青磁破片が多く出土した。また、元祐通寶が出土した。	金子浩昌による人骨・動物遺存体の同定。人骨3体分。140年代測定も実施。	022	-	40-2-13	140-5-21
02-	019	松館跡	秋田市金足岩瀬字松館29	970±80(β)、1160±80(β)	八郎湯に面する台地。馬踏川に開析される。標高21m。	火葬墓4基。他に長方形で掘り込みが垂直を呈する土坑が1基あるが、人骨が出ておらず墓かどうかは不明。火葬墓は直径26～60cmの円形鍋底状と96×44cmの楕円形土坑。	-	学習院大学放射性炭素年代測定	011	-	39-51-20	140-4-16
02-	020	待入Ⅲ遺跡	秋田市金足片田字待入505他	14～15世紀代	馬踏川の刻む台地中腹部。標高12～18m。	火葬墓が22基発掘された。第1区3基、第3区19基と2箇所に分かれているが、両区とも尾根筋にまとまる。このうち3基からは銅銭出土。1点は北宋銭の政和通寶。墓の形態は、直径20cmの小さな円形土坑から3.7×1.4mの長方形まである。	11世紀代の浄瓶、12～14世紀代の中国陶磁器、16世紀代の大窯期、珠洲は12～15世紀代まで出土。	-	017	-	39-49-24	140-5-19
02-	021	岩土山火葬墓	雄勝郡羽後町西馬音内堀回字岩土山	9世紀後半～10世紀前半	出羽丘陵東端の台地上。谷が深く入り込み馬蹄形を呈する稜線の一番奥。標高120m。	自然の窪地に木炭をしき蔵骨器を置く。蔵骨器本体下半も木炭で囲む。直径2.5mの盛土があった。	本体は赤焼土器（土師器）甕、鉢が蓋となる。	-	061	-	39-11-58	140-22-51
02-	022	小吉山火葬墓（朝倉火葬墓）	横手市大鳥町	中世？	横手川の支流古沢川の南標高70mの独立丘陵。	高さ4尺、南北幅3間、東西幅2間の積石式。石製蔵骨器2点と骨が出土。	本体上部は1辺40cmの方形、底部は直径36cmの不整形円形で内径21cm深さ12cm。蓋は1辺42cm。	-	057 061	図面なし	39-19-42	140-33-48

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経	
02-	023	保土森火葬墓	横手市金沢中野字三貫堰	9世紀後半	西沼の東側、微高地。標高59m。	蔵骨器1基。	須恵器長頸壺に骨粉と木炭が残る。壺は秋田県指定文化財。	-	大正2年、耕地整理の際に出土。現在、その地点不明。	057 061	北東2kmに金沢柵、閑居長根経塚あり。	39-21-50	140-33-16
02-	024	潟向火葬墓	秋田市金足小泉字潟向	9世紀後半～10世紀前半	男潟の西岸の砂丘上、標高20m。	火葬墓7基以上。7号火葬墓は直径40cmの木炭ブロック下から蔵骨器を発見。	-	-	061	1957年と同開跡が見つかったという。	39-49-21	140-3-33	
02-	025	北野火葬墓	秋田市金足字北野	9世紀後半～10世紀前半	潟向火葬墓簿の北1km。標高12mの砂丘上。	3個体の蔵骨器。	赤焼土器（土師器）甕を使用。	-	詳細不明。遺物の一部は紛失。	061	-	39-49-57	140-3-16
02-	026	大郷守火葬墓	南秋田郡昭和町大郷守	9世紀前半	八郎潟の南に細長く連なる砂丘上。	火葬墓1基。蔵骨器内上部には木炭片、下部は骨片が検出された。	輪積みによる土師器甕を使用。ろくろ不使用。	-	耕作時に発見、詳細不明。	061	-	39-50-59	140-2-43
02-	027	南台火葬墓	南秋田郡井川町八田大倉字南台	9世紀後半～10世紀前半	標高35mの台地上。	蔵骨器2個体が1.5mの距離をおいて発見された。黒色土を浅く掘り込んでおり、蔵骨器のまわりは厚さ10～20cmの木炭で囲まれていた。	赤焼土器（土師器）短頸壺と須恵器壺を使用。いずれも木炭と骨片が残る。須恵器壺の中から角製櫛破片が見つかった。	-	-	061	-	39-54-9	140-6-55
02-	028	秋田城跡	秋田市寺内	9世紀代後半中世～近世	旧雄物川河口部を見下ろす高清水台地上。標高50m。	①第10次調査では土坑墓10基。②第26次調査では土坑墓1基。③第35次調査では中世の土坑墓11基。④第42次調査では土坑墓3基。⑤第62次調査では9世紀後半の土坑2基。⑥第67次調査で9世紀後半の土坑7基。⑦第4次調査では合口甕棺墓（中の崎と同類型）。木炭を敷き詰めた楕円形プランの土坑に横位に埋置。	①永楽通寶、洪武通寶、寛永通寶。②銭貨4枚。③銭貨、鉄釘、毛抜き。④須恵器、赤褐色土器、瓦。⑤鉄鏃6点、赤褐色土器。⑥赤褐色土器、灰釉陶器、かわらけ。⑦土師器甕。	-	③④中近世の土坑墓は、古代の土取り穴群が完全に埋まりきらない窪地を主に利用している。⑤⑥は秋田城跡調査事務所では墓とは認定していない。参考例。	028 029 031 050 051 052 063	-	39-44-25	140-4-50
02-	029	後城遺跡	秋田市寺内字後城	14～15世紀代	旧雄物川河口部の砂丘上。標高20m。	火葬人骨を埋葬した土坑墓21基がA地区にまとまる。6基から六文銭が出土。「洪武通寶」が最も新しい。また、珠洲Ⅳ期の小破片が出土。	中国青磁・瀬戸・美濃・珠洲などが多く出土。宝篋印塔破片、塔婆が出土した。	-	-	027	-	39-44-27	140-4-24
02-	030	地蔵田A遺跡	秋田市四ツ小屋末戸松本字地蔵田	9世紀後半～10世紀前半	雄物川の支流岩見川に刻まれる御所野台地上。標高30m。	火葬墓2基。1号は60×30cmの範囲内、深さ15cmに人骨。2号は60×40cmの範囲内、深さ20cmに人骨。1、2号の距離は4.5m。	墓に伴う遺物なし。遺構外の遺物は平安時代。	石田肇（札幌医科大学解剖学第2講座）「地蔵田A遺跡出土の人骨について」	030	-	39-39-24	140-9-8	
02-	031	土花遺跡	本荘市万願寺字土花	13世紀前半？	子吉川の支流石沢川の作る河岸段丘。標高12m。	火葬墓1基。2.2×1mの長方形。深さ26cm。	墓に伴う遺物なし。遺構外の遺物は同安窯青磁、青白磁他。	パリオ・サーヴェイ株式会社「自然科学分析3（6）骨同定、4考察（2）中世火葬墓（SX457）の燃料材、（3）中世火葬墓（SX457）の内容物	045	-	39-20-40	140-4-43	
02-	032	茂竹沢遺跡	平鹿郡山内村土淵字茂竹沢	中世～近世	雄物川の支流、横手川左岸の小起伏山地に立地。標高111m。	積石塚2基。1基は直径3.2m。もう1基は直径2.5m、高さ35cm。	近世陶磁	-	寺である可能性が高い。石垣状遺構など、石組みや集積遺構が多い。	019	菅江真澄の記録（19世紀初頭）に「寺ノ跡」とある。	39-17-2	140-36-16
02-	033	内村遺跡	仙北郡千畑町千屋字内村45	平安末～鎌倉初頭	釜淵川の支流丸子川の作る低地。丸子川との比高は4～5m。	和鏡が曲物に入って出土。確認調査時の出土で詳細不明。コンテキストを失っており墓かどうか不明。	越州窯系青磁、緑釉陶器（近江産）2点出土。	-	私田柵跡（045）から3kmと近隣にある。	002	-	39-26-58	140-34-43
02-	034	前通遺跡	横手市杉目字前通159外	12世紀後半	横手川の支流杉沢川の作る扇状地の扇端部の微高地。川との比高5m。標高60m。	土坑墓3基、隅丸方形の周溝墓1基。方形周溝は主体部を持つ。また、方形周溝の両脇等間隔に2基の土坑墓が伴う。	白磁壺Ⅲ系と青磁、珠洲系Ⅱ期が土坑墓に伴い出土。方形周溝は、伴出遺物なし。	-	9世紀初頭に集落が成立。9世紀第3四半期までには集落外に延びる道路が整備され中世まで存続する。	026	-	39-20-10	140-34-40

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経
02-	035	西野遺跡	南秋田郡昭和町豊川字家ノ上117-1他	9世紀前半	八郎潟に面する標高14~27mの台地上。	円形周溝1基、円形周溝の1部と考えられる溝1基、方形周溝1基、方形周溝の一部と考えられる溝1基。	遺構に明確に伴う遺物なし。	株式会社古環境研究所「第5章自然科学分析 第1節西野遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定」	025	-	39-52-31	140-4-52
02-	036	上祭沢遺跡	河辺郡河辺町戸島字上祭沢38他	平安末~鎌倉初頭	馬の背台地の上。岩川川。標高62m。	塚が4基見つかった。そのうち2基を発掘調査。残り2基は範囲外。調査した2基とも溝で区画される。1基は溝内側で直径4.6×4.3m、盛り土高さ40cm。溝幅は64~98cmで、掘り込みは2段有り。礫が塚頂部直径2mの範囲に集中。もう1基は、溝内側で直径4.7×4.2m、中央1.5mの範囲に拳大の礫を素面に積む。礫は溝内部にも入る。	1基から、素文たたきしめ陶器2片出土。また、工事関係者の持ち込みによる須恵系統器の壺は、初期の中世陶器。素板板状原体・酸化炎焼成による橙色の器面を呈する。	-	009	-	39-37-51	140-12-1
02-	037	手取清水遺跡	横手市清水田新田字血川端22外	9~10世紀代 13世紀中葉~14世紀後半	雄物川の支流血川。血川と大戸川に挟まれた標高42mの扇状地。	円形周溝5基、「コ」の字形溝4基。円形周溝は溝の内側でそれぞれ直径5.3、4.5、6.05、6.5m。溝には礫が入る。そのうち1基は南西部に礫が20個集中して出土。「コ」の字溝はそれぞれ9×10、7×12、7.2×11、3.5×4m。溝の中に楕円形土坑が複数掘り込まれている。覆土中には黒灰と骨片が含まれる。	平安時代の墨書土器多数出土。また中国陶磁器や木製品も多い。	中野益男他「手取清水遺跡遺構に残存する脂肪の分析」	010	-	39-19-47	140-30-32
02-	038	上猪岡遺跡	横手市猪岡字猪岡245外	10世紀前半	丘陵斜面、標高54.3m。	円形周溝（報告書では環状溝状遺構）1基、集石遺構1基。円形周溝は溝の内側で直径9.7m。溝の覆土には炭化物の層。	-	-	015	-	39-18-45	140-30-58
02-	039	竹原窯跡	平鹿郡平鹿町上吉田字門内字竹原118-121	平安~中世	雄物川の作る独立丘の西側斜面。標高55~66m。	集石土坑3基。1.2~1.7mの円形から不整形方形。1基は拳大の川原石を充填し、他は数点入れる。	遺構外出土の土師質高台付き碗にへら書きで「五十集屋敷」。	-	014	-	39-18-37	140-31-5
02-	040	小出Ⅰ遺跡	仙北郡南外村字小出443外	10世紀前半 13世紀前半	雄物川の支流、槽岡川右岸に形成された段丘。標高65m。	円形周溝1基（報告書では環状周溝と記載）、火葬墓5基。円形周溝は直径5.2m。溝には大小の礫を大量に含む。また炭化物が出土している。火葬墓2基は土師器坏を2個合わせ口になっている。他は、大小の土師器壺をセットとして底部穿孔の上倒立状態で埋納、土師器坏で蓋をしているものや、須恵器壺を倒立して埋納するもの、須恵器壺を正位で埋納し土師器坏で蓋をするものがある。いずれも内側から骨片・炭が出土し、埋納土坑には炭が充填されている。	円形周溝内より経筒の外容器が出土（大畑窯、珠洲Ⅱ期相当）	三辻利一「小出遺跡出土中世陶器の産地推定」	013	-	39-27-58	140-23-3
02-	041	寄騎館遺跡	仙北郡協和町峯吉川字芦沢通40	中世	雄物川の支流、芦沢川により形成された段丘上。標高30m。	火葬墓2基、土坑墓2基。土坑墓は報告書では1基としている。火葬墓は、焚口を持つ方形。	土坑墓には、天禮通寶（1017年）など三点が副葬されていた。	-	020	-	39-33-11	140-21-40
02-	042	新田表Ⅱ遺跡	仙北郡協和町荒川字新田表14外	17世紀後半	雄物川の支流荒川が作る河岸段丘。標高61m。	積石土坑2基。切り合いとなる。	-	-	037	-	39-36-56	140-21-53
02-	043	桐木田遺跡	雄勝郡雄勝町小野字飯塚	13~17世紀	雄物川と役内川に挟まれる。雄物川の古い自然堤防上。標高136m。	集石土坑2基と組石遺構1基。組石遺構からは青磁の小破片が1点出土したが詳細な時期不明。形態は、一乗谷などで井戸や石積み遺構と呼んでいるものと構造が似るもののサイズは半分以下。また、集石土坑は直径1~1.2mで深さ10~30cmの鍋底状土坑に直径20cm大の礫を充填している。人骨の出土はなく、本当に墓かは不明。	集石土坑から唐津壺もしくは壺の破片と皿が出土。副葬品かどうかは不明。	-	004	-	39-4-7	140-27-42

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経
02-	044	大杉沢遺跡	秋田市四ツ小屋小阿地字大杉沢61他	平安	雄物川の支流岩見川に刻まれる御所野台地上。標高40m。	円形周溝3期、土坑1基。円形周溝は溝の内径で7~9m、外径で9~11m。土坑は副葬品が無く墓かどうかは不明だが、隅丸長方形で内面にpitを持つ。	平安時代の土師器と珠洲Ⅱ期相当。	-	007	-	39-40-20	140-9-22
02-	045	弘田柵跡 (長森西部)	仙北郡仙北町弘田字長森	13世紀前半、珠洲Ⅱ期相当	雄物川の支流、矢島川と丸子川間の扇状地に残された標高45mの残丘。低地との比高は10m。	隅丸方形の周溝2基と火葬墓3基。方形周溝に連続してもう1条溝があり、これも別の方形周溝の一部をなす可能性が高い。これら墓の南側に焼土遺構が6基あり、火葬墓にかかわると考えられる。	珠洲Ⅱ期相当の播鉢と壺	-	042	-	39-28-7	140-32-40
02-	046	館堀城跡	雄勝郡雄勝町寺沢字館堀10番地外	13~14世紀が中心	雄物川の支流役内川の作る自然堤防状に立地。標高165m。	火葬墓36基。そのうち5基は土坑内で直接火葬。残りは、他所で火葬した骨を土坑内に埋葬したもの。	大量の貿易陶磁が出土した。墓坑内ではないが、経筒の蓋も出土。	パレオラボ山形秀樹による140年代測定が12遺構に対して行われた。そのうち4遺構が火葬墓。700±20、660±20、590±20、550±20 (AMS)	021	焼土遺構や方形土坑も参考に加えた。骨は出ていないが墓の可能性が高い。	39-2-43	140-27-7
02-	047	大湯環状列石F5区	鹿角市十和田大湯字万座11	900年代前半	大湯川により形成された風張台地の縁辺部に立地。標高178m。	円形周堀をもつ「古墳」を6基検出。	遺物の出土はない。	-	047	-	40-16-23	140-48-8
02-	048	高瀬館跡	鹿角市花輪字小森沢119-20	中世	米代川の刻む台地上。標高142~180m。	土坑墓2基。これは規模・埋土の状況・出土遺物の内容より推定。	刀子、鉄釘、鈴、刀柄金具、銭貨、羽口、字引金、鎌	-	033 048	主郭から北へ約150mに薬師神社あり。その境内から懸仏出土。	40-12-5	140-46-24
02-	049	湯ノ沢F遺跡	秋田市四ツ小屋末戸松本字湯ノ沢	9世紀後半~10世紀前半代	雄物川の支流岩見川に刻まれる御所野台地上。標高32m。	土坑墓40基。墓は東西63m、南北36mの楕円形の範囲内に収まる。等高線はこの地域でほぼ同心円状にまわり、緩いマウンド状を呈する。	鉄刀、鉄鏃、鉄斧、石帯、馬具、土師器（赤褐色土器）、須恵器	-	049	被葬者については、「夷」とも解されるへら書土器（赤褐色土器）の副葬品などから秋田城に関連をもつ有力者ではないかと推定。	39-39-3	140-10-3
02-	051	上谷地遺跡	本荘市	-	子吉川右岸の段丘先端部。標高18m。	墳墓1基、主体部土坑。	漆器、火打金、水晶粒、硫黄粒。漆器は台付きの盃と推定され、4点重ね伏せられた状態で納められていた。	-	054	-	39-23-20	140-4-37
02-	052	小出Ⅱ遺跡	仙北郡南外村字小出	10世紀前半	雄物川の支流、桧岡川右岸に形成された段丘。標高60m。	火葬墓1基	原位置は保っていないが、土師器壺と坏が骨蔵器として使用される。	-	013	-	39-28-2	140-23-0
02-	053	オホン清水北遺跡	横手市塚郷字オホン清水北	古代か	雄物川の支流、大戸川右岸の沖積地。標高46m。	円形周溝の遺構1基。周溝の南側の一部が土橋状に埋め戻されている。	遺物の出土なし。	-	053	「墓としての性格を推定している場合が多いが、本遺跡の場合の性格については全くの不明である」	39-19-39	140-30-16
02-	054	梨ノ木塚遺跡	平鹿郡増田町吉野字梨ノ木塚	不明	雄物川の支流、成瀬川が形成した段丘上。標高130m。	方形周溝の遺構2基。	なし。	-	055 056	遺跡内に経塚（一字一石経）あり。	39-12-2	140-35-3

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経	
02-	055	貝沢拾三本塚 10号墳	雄勝郡羽後町貝 沢字拾三本塚	12世紀代か以降	雄物川の左岸の微高 地。標高68m。	径7m、高さ1.22mの塚。 墳丘内より477個の一字一石経 石と13点の銭貨、火葬骨が出 土。骨は銭貨に付着していた。	新潟大学小片保教授 の鑑定による。	最新銭は北宋の大観通寶 (1107年)である。	058	いわゆる十 三塚の1基 に火葬骨が 埋葬。	39-11-48	140-26-20	
02-	056	岸館遺跡 (七曜塚)	仙北郡協和町境 字岸館	中世?	雄物川の支流、淀川 と荒川に挟まれた台 地端部。	一辺7m、高さ1.1mの方墳状の塚。 塚中央部より木棺内に入れられ た人骨出土。座棺。金属に動物 の骨を結びつけたもの10数個、 皮革に漆を塗ったもの、鉄釘 (棺に使用)	-	人骨から推定すると6尺以 上の老人。右こめかみに外 傷らしい穴があり、槍によ り刺突された?	038	昭和26年発 掘調査	39-34-56	140-22-9	
02-	057	九日町遺跡	由利本荘市矢島 町元町字片平ノ 下	主に13~14世紀 後半	子吉川左岸の沖積段 丘上に立地。標高は 約65m。	火葬墓9基。火葬骨出土は3基。分析の結果、成人であると判断された。土坑のうち3基に小穴あり、報告では墓標柱痕跡と想定。	1基から須恵器系陶器片出土。 他には鉄洋・鍛冶滓が少量の み。	バリノ・サーヴェイ 株式会社 土壌理化学 分析・骨同定	A058	-	39-13-36	140-9-38	
02-	058	水木田遺跡	大仙市四ツ屋字 水木田	13世紀	雄物川支流玉川左岸 の自然堤防上に立 地。標高は約34m。	1958年、ゴボウ畑を耕作中に地下1mから 発見。遺構の詳細は不明だが、陶器2個 体と共に多量の炭と人頭大の河原石が掘 り上げられた。	底部穿孔の須恵器系陶器壺に播 鉢を倒位にして被せた状態で出 土したとされる。壺内部には茶 色の土が詰まっていたが、洗い 流してしまったそうである。	-	-	-	39-30-54	140-30-38	
02-	059	払田柵跡 (真山地区、 第125・129次 調査区)	大仙市払田字真 山	10世紀前~中頃	雄物川支流の矢島川 と丸子川の間の扇状 地に位置する残丘 (真山丘陵)上に立 地。標高55m前後。	火葬墓2基。1基は方形プランの土坑内 に土師器長胴甕を倒立して埋置。壺内部 には少量の骨片と炭化物が入れられてい た。また骨片堆積層上には砂が観察され た。もう1基は、竪穴状遺構内に少量の 火葬骨が点在していた。	土師器長胴甕は底部を底抜けに した後に使用か。	バリノ・サーヴェイ 株式会社 骨同定	A059 A060	-	39-28-7	140-32-33	
02-	060	秋田城跡 (神屋敷地 区)	秋田市寺内字神 屋敷	9世紀後半	-	1955年、土取り作業中に土坑墓1基検 出。	「佛」の墨書をもつ土師器坏、 その他3個体出土。木炭片と骨 片も見られたとされる。	-	-	B008	墓発見地の 詳細な位置 は不明	39-44-6	140-4-50
02-	061	柴内館跡(D 区)	鹿角市花輪字乳 牛平	17世紀前半~18 世紀後半	米代川支流不動川左 岸に形成された舌状 台地上に立地。標高 158~160m。	土坑墓14基。埋葬形態は座位屈葬、横臥 屈葬、仰臥屈葬の別がある。	副葬品は、寛永通寶、無文銭、 切羽、煙管、数珠玉、銅製鏡、 銅製皿、和鉢、火打ち金、木製 櫛の他、棺桶に使用された鉄釘 も出土。	東北大学大学院医学 系研究科人体構造学 講座(百々幸雄他) 人骨12体の鑑定報告	A061	-	40-12-45	140-48-38	
02-	062	物見坂I遺跡	鹿角市十和田錦 木字物見坂	9~10世紀初頭	米代川右岸の台地先 端部に立地。標高 145m前後。	円墳(周溝)4基検出	3基から、蕨手刀2、瑪瑙製耳飾 り、鍔帯金具2、土師器坏出 土。	-	-	A062	-	40-14-59	140-46-59
02-	063	払田柵跡 (長森中央 部、第126次 調査区)	大仙市払田字長 森	15世紀末~16世 紀代	雄物川支流、矢島川 と丸子川の間の扇状 地に残された標高 45mの残丘上面に立 地。	土坑墓2基。規模・形態から、屈葬形の 土葬墓と判断される。	1基の土坑内6地点から銭貨・木 片が出土。銭貨は洪武通寶・元 祐通寶・無文銭がある。	-	-	A059	土坑墓検出地区は現況でも 幾らか窪んでいることから、 集団墓であった可能性 がある。	39-28-7	140-32-52
02-	064	龍門寺茶畑遺 跡	由利本荘市岩城 町赤平字向山	17世紀代	日本海沿岸部、小河 川である衣川右岸の 段丘上に立地。標高 は28m。	土坑墓1基。報告では輿状の木製(構造 物)葬具を伴う土葬墓であり、改葬を受 けているものとしている。土坑の規模は一辺 2.6mの正方形、底面までの深さは 1.15m。底面には板敷きがなされ、その 上に六角形の木組みが残る。	出土遺物はないが、木製構造物 の一部には墨書が見られ、装飾 的な部材も認められた。土坑周 辺出土の陶磁器は17世紀中頃を 主体とする。	-	-	A063	遺跡に隣接 する龍門寺 は、近世・ 岩城氏の菩 提寺、1628 年の開山	39-30-3	140-5-10
02-	065	森吉家ノ前A 遺跡	北秋田市森吉字 森吉家ノ前145外	16世紀後半と10 世紀後半	米代川の支流小又川 に面する河成段丘 上。標高151m。	16世紀：火葬墓13基、土坑墓12基。火葬 墓は9例が柱穴様ビットに人骨を埋納。 土坑墓からは銭出土。又、井戸跡1基か らサバマス状(葬具)の有孔方形板出 土。10世紀後半：土坑墓1基。	16世紀：SK3034から永楽通宝 1、大観通宝1、開元通宝他3、皇 宋通宝他6出土、銅製匙(灰匙 か、密教系遺物)1、10世紀後 半：五所川原産須恵器甕(前田 野目系?)	14C(AMS)年代測定、 動物遺存体同定	A064	東側調査区に墓域を形成す る。墓坑は列状に配列す る。火葬骨を埋納した柱穴 様ビットのあたりは溝状 で、分厚い板を据えたこと から、卒塔婆が並んだと推定。	40-3-3-	140-29-27	

番号	遺跡名	所在地	時代	立地環境	遺構の概要	遺物の概要	自然科学分析	調査所見	文献	備考	北緯	東経	
02-	066	地蔵岱遺跡	北秋田市森吉字地蔵岱	平安末～鎌倉時代初頭	米代川の支流小坂川の刻む台地上。標高163m。	河成段丘状に火葬墓群が形成される。	中国陶磁器、須恵器系陶器他	14C (AMS) 年代測定他	10世紀後半の古代環濠集落と12世紀末～13世紀代の大集落。火葬墓は12世紀末。	A065 A066 A067	報告書未刊行。現在整理中。	40°3'10"	140-29-36
02-	067	ムサ岱遺跡	能代市浅内字ムサ岱38外	10世紀第2四半期	日本海に面した砂丘列の後ろある台地上。標高28m。	土坑墓1基。他にも同規模・同形状の土坑が複数まとまってあり、おそらくは墓域を形成する。	鉄刀が副葬。	14C (AMS) 年代測定、樹種同定、炭化種子同定、火山灰分析	上の山Ⅱ遺跡と隣接して10世紀の大集落となる。	A068	-	40° 9' 19"	140° 1' 52"
02-	068	新屋敷遺跡	湯沢市(旧雄勝町)桑ヶ崎字新屋敷146外	12世紀末～14世紀	雄物川低地に形成された複合扇状地上に立地。標高127m。	14世紀初頭：火葬墓3基。12世紀末～14世紀：墓の可能性のある土坑21基。	副葬品なし。遺跡からは中国陶磁、瀬戸産・常滑産・須恵器系陶器、瓦質土器、かわらけなどが出土。	14C (AMS) 年代測定により683±34BP	火葬墓3基のみ別地点にまとまる。掘立柱建物跡などの集中区とは河川跡で分断されるため、当時の他界観を反映したものと考えられる。	A069	-	39° 28' 47"	140° 28' 42"
02-	069	真山遺跡	男鹿市北浦真山字水喰沢	15世紀以降	男鹿半島西部の丘陵地に立地、標高156～160m。	径60m程の範囲内に41基の墳墓群が点在。うち22基を調査。盛土の下に掘り込みをもつもの2基、骨片を伴うもの4基あり。	2基から珠洲V期相当の播鉢片、他からは染付皿(近世)、煙管、寛永通寶や鉄片等出土。	応用地質株式会社による14C年代測定とリン分析	墳墓群は明治初年に廃寺となった光飯寺住職の墓地との伝承が残る地である。	A070	-	39-55-48	139-46-5
02-	070	脇本城跡 (第12次調査)	男鹿市脇本脇本字七沢他	近世(城の成立期は16世紀以前)	男鹿半島南端の丘陵地に立地、標高22m。	土坑3基。トレンチ調査のため、規模・形態不詳。	1基の底面近くから板材が検出され、その上に寛永通寶2枚と漆塗り製品が乗せられていた。	-	調査区は城跡の東側の宗教的な地区。	A071	-	39-54-12	139-53-32
02-	071	脇本城跡 (お念堂地区)	男鹿市脇本脇本字七沢他	16世紀前半～17世紀前半	男鹿半島南端の丘陵地に立地、標高20m。	柱列(沢の護岸施設)	護岸施設の材に転用された柱状卒塔婆4基(最大のもの長さ約2.8m)。その他沢部包含層から柿経、毘塔婆、板塔婆の木製品や「大姉」の戒名のある墓石も出土。	-	調査区は城跡の南西端部にあたる。	A072 B009	柱状卒塔婆は現在、整理・検討中。	39-54-0	139-53-1